

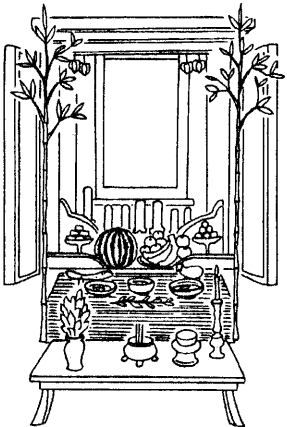
# 水谷山 寶清寺

## 不幸があってもあわてないために

「あきらめる」(真理を明らかにする)  
「あきらめる」という言葉には消極的なイメージが強いが、本来の意味は、まったく違います。「あきらめる」は、「諦める」と書きますが、「諦」はサンスクリット語で「真理」を意味します。したがって「諦める」は「真理を明らかにする」が本来の意味です。

## お盆 自分と亡き人とのつながりを感じる日

今年もお盆の季節がやってきました。真夏の暑い日に、亡き人が我が家を訪れる。仏様の里帰りの日です。お盆の語源はウランバナというインドのことで、漢字にすると盂蘭盆、それをちぢめたのがお盆です。お盆の供養は、餓鬼道におちているかもしれない先祖のためのものでされています。餓鬼道とは、欲しい欲しいと欲しても食べることができない世界です。お釈迦様の弟子の目連さまの母もそんな世界で苦しんでいました。目連さまは、餓鬼道で苦しむ母を救うため、お釈迦様の教えに従い、十方の僧を招いて供養しました。その結果、母は餓鬼道から救われたとされています。その親を思う孝養の心が今日まで伝わり、現在のお盆の行事となっています。欲しい欲しいと言ふ欲望の世界は、この現実世界でもあります。満足する事を知らない



## お施餓鬼法要

当山では、七月十四日(土) 十一時より

盂蘭盆会に因み、お施餓鬼合同法要を厳修致します。お施餓鬼法要終了後、客殿にお斎(お弁当)を用意致します。お盆に花を飾り、食物を供え、お経をあげるのには、個人に対する感謝の心をかたちにあらわした報恩の営みです。当日ご都合のつかない方は、お盆の期間中に、是非、お参りください。

## 戒名(法号・法名)は亡くなった後の名前

戒名(法号・法名)は亡くなった後の名前です。戒名は仏弟子となった証としてつけられるもので、生前につけられるものではないかという意見もありますが、菩提寺で仏式の葬儀を営む事は、戒名が仏弟子としての名前であることを考えれば、やはり、戒名をつけるのが自然だと言えます。日本では、戒名がつけられるようになったのは、奈良時代や平安時代ですか、それは天皇や貴族のものであり、庶民にはほど遠いものでした。院号を最初につけたのは、平安時代の冷泉天皇の「冷泉院」です。現在では一般的になっている「院号」も昔は一寺を建立した將軍や大名に使われていました。武士以上の者に、「院号」がつけられるようになったのは江戸時代からです。繰り返しますが、戒名は死後の名前ではなく、仏弟子として名前なのです。

## 「おかげさま」(仏さまに感謝)

「病気の平癒や災厄の除去と祈りを寺社にお参りすること」を、「おかげ参り」と呼んでいました。仏教では、すべての存在するものは何かの因縁によって、生じ滅する、と説いています。したがって、仏教徒はお釈迦様の教えに感謝し、自我をおさえ、縁を大切に、「おかげさま」という気持ちをもって、日々暮らしていきたいものです。

## 寺務員の異動

寺務員の竹沢恭子が家事の都合により五月末日で退職しました。その後任として、六月より池田あさ子と笠井すみ子が勤務する事になりました。現在お勤めの、西脇千恵子と住職の長女であり、副住職夫人でもある、石井靖枝の四名の内勤寺務員と師岡伸昭・北原界の二名の外勤寺務員がお檀家及び橋墓苑使用者のお世話をして戴く事になりましたので、よろしくお願い致します。

## お盆に塔婆供養を!

お塔婆のお申し込みは同封のしがきにて、早めにお願致します。

## 墓参用生花

